

2024 年度事業報告

認定特定非営利活動法人わかやま NPO センター

総 論

2024 年度は、休眠預金等活用事業の「資金分配団体」への応募に 2 回チャレンジしましたが、いずれも高倍率の前に採択ならず、中央の資金を県内 NPO 等に誘導することはできませんでした。

一方、主力事業である和歌山県 NPO サポートセンターの事業運営に関しては、当初設定していた数値目標を達成したほか、ご利用も着実に回復しており、コロナ禍前の水準におおむね戻りました。また、他県の NPO 支援組織等と連携した取り組みも少しずつ進んでおり、なかでも NPO 等で働く人の安心につながる仕組みづくりが端緒についたものと考えています。県内外の NPO 活動の「ハブ」としての役割が高まっていることを実感した 1 年となりました。

昨年度の掲げた 2 つの重点ポイントに対する自己評価は以下の通りです。

【1】和歌山県 NPO サポートセンター（指定管理者第 7 期）の確実な運営

第 6 期（2021～2023 年度）より微増した指定管理委託料を上回る物価上昇に見舞われ、苦戦が予想されましたが、利用者数は和歌山県から提示された目標 13,000 名を達成し、また、印刷機等のご利用が過去最多を更新するなど、順調な運営ができたものと考えています。

昨年 4 月末から Instagram を新たに開始し、従来から運営していたウェブサイト、Facebook ページ、X（旧 Twitter）、メールマガジンを交えた多彩な手段で県内 NPO・ボランティア団体の情報に触れていただくようにし、裾野の拡大に寄与しました。さらに、NPO サポートセンターが持つ情報などをもとに、複数団体の連携・協働を促す「マッチング」の拡大も実施し、新たな取り組みの創出に関わりました。

【2】「地域運営組織」「居場所」等、社会情勢を踏まえた取り組みを実施

2023 年度から橋本市、田辺市での「地域運営組織」設立支援に関わっており、2024 年度は橋本市では 2 地区で地域ワークショップの運営を通じた「今後の地域づくりのあり方」の検討に、田辺市では 2 つ目の「新しい自治の仕組みづくり」モデル事業の運営に、それぞれ携わりました。両市とも 2027 年～28 年ごろに「地域運営組織」の

全市導入を目指した検討が行われていますが、その基盤となる取り組みに関与を続けています。

また 2024 年度に発足した和歌山県こども食堂応援ネットワーク（事務局：和歌山県社会福祉協議会）の取り組みに参画し、認定 NPO 法人全国こども食堂支援センター・むすびえとの三者連携による「こども食堂設立応援セミナー」の運営や、その動画・資料のアーカイブ発信などを通じて、こども食堂の設立だけでなく、運営母体の運営基盤整備に資する取り組みに参画しました。さらに、みなさまからいただいたご寄付を原資に運営している「わかやま SDGs パートナリシップ基金」では、こども食堂や地域食堂をはじめとした「地域の居場所」を運営する団体への助成金事業を実施し、20 団体を超える申請があり、13 団体に対して 3 万円を助成。資金面での支援も実施しました。



（写真：こども食堂でのこども同士の交流の様子。画像は加工しています）

2024 年度個別計画ごとの自己評価

1) 和歌山県 NPO サポートセンター運営

指定管理者第 7 期の第 1 年度の 2024 年度の NPO サポートセンターの来館者数は、前年度比約 9%増

の 13,183 人（うちオンライン利用 45 人）となり、県が設定した目標値をクリアしました。

各種講座は可能な限り ZOOM を併用したハイブリッド開催としたほか、可能な範囲で YouTube 見逃し配信をおこなうなど、受講機会の拡大に努めました。

印刷機や長尺プリンタなどの機器のご利用はさらに大幅に伸長し、金額ベースで過去最高を記録するなど、様々な場面でご利用をいただきました。

NPO 法人の新規設立ニーズは増加傾向にあり、現在はこども食堂や地域食堂、児童養護施設等を卒業した若者の居場所など、困難な状況にある方の支援や地域コミュニティの再構築にあたらうとする動き、地域活性化を図ろうとする動きなどがみられます。

NPO サポートセンターでは新たに Instagram での情報発信を開始し、ほぼ毎日、Facebook ページ、Instagram、X でイベントや助成金等の情報を発信し、活動のすそ野の拡大に努めています。

こちらの QR コードから和歌山県 NPO サポートセンターの事業報告をご覧ください。



2) NPO の組織基盤強化支援

和歌山市地域フロンティアセンター利用登録団体有志で構成する「和歌山市 NPO・ボランティア推進協議会」の運営委員として協議会に関わり、「和歌山市 NPO・ボランティアフェスタ」を数年ぶりに開催したほか「和歌山市議会議員と NPO・ボランティア団体との円卓会議」の運営にも携わっています。

活動の社会的意義は大きいものの、対価性が低く運営基盤強化が困難な団体を対象にした運営実務支援については 2 団体に対して実施したほか、このノウハウを拡大すべく、和歌山県 NPO サポートセンター事業としても同様の事業を展開できるよう準備を進め、2025 年度から 1 団体の支援を実験的におこなう見込みとなりました。

みその商店街内のわかやま NPO センター法人事務所を活用した「シェアオフィス事業」については、2024 年度から 2 団体とのシェアオフィスが始まり、2025 年度からはさらに 1 団体が加わることとなりました。

2023 年度に休眠預金等活用事業の指定活用団体である JANPIA（日本民間公益活動連携機構）と連携した「休眠預金等活用事業に関する学習会」を開催したことを契機に、わかやま NPO センターとしても「資金分配団体」に応募しましたが、2024 年度

第 1 次募集・第 2 次募集とも惜しくも採択ならず、引き続きチャレンジできるよう準備を進めています。

3) 様々な主体とのパートナーシップによる公益活動支援・SDGs 達成に向けた取り組み

★企業との連携

近畿労働金庫社会貢献預金「笑顔プラス」寄附事業として実施している防災・減災の取り組みとして、和歌山市社会福祉協議会に対する備蓄品の贈呈のほか、和歌山大学災害科学・レジリエンス共創センターの西川一弘教授と JR 西日本のご協力を得て和歌山市新在家の車庫では初めてとなる、一般のみなさんを対象とした津波避難訓練と防災学習を実施（写真）。防災学習プログラムの策定にも関与しました。



近畿労働金庫「NPO パートナーシップ制度（近畿 2 府 4 県の NPO 支援機関との連携事業）」に基づき、2024 年度のテーマである「子育て世帯の応援」として、「子育てママのキャリアデザイン講座」を、これまで同様の講座がほとんど開催されてこなかった九度山町と有田川町で開催。地方であっても様々なキャリアやノウハウを持つ現役世代の女性が多数いることが可視化され、今後の活動に期待が持てる結果となりました（写真）。



花王ハートポケット倶楽部助成事業「わかやまいきいきファンド」は 16 回目を迎え、スタートアップ助成（設立 2 年以内、5 万円×4 団体）、パワーアップ助成（設立 2 年超、10 万円×3 団体）を花王グ

ループ社員のみなさまと協働して実施しました。助成金贈呈式では助成先のすべての団体にご出席いただき、交流を深めることで団体同士の横のつながりの創出にもつながっています。

このほか、大塚商会「たのくんからの贈り物」事業による会員 NPO への物資提供、明治ホールディングス「選択寄附制度」による県内の障害児支援施設へのお菓子寄贈（県内の市民活動支援機関の協力で県内 5 施設に寄贈）のコーディネートを実施しました。

★行政等との連携

2024 年度は橋本市の「地域運営組織」づくりを見据えた地域ワークショップ（高野口地区・隅田地区）のほか、組織のあり方について意見交換をおこなう懇話会等に、田辺市では「田辺らしい自治のあり方モデル事業」の 1 番目のモデル地域である新庄地区に加え、2 番目のモデル地域となった上芳養地区におけるワークショップ等のコーディネーターとして地域づくり活動に関わりました。

このほか和歌山市・田辺市・岩出市などで行政職員や市民向け講座の講師を引き続き担当しました。

和歌山市では「和歌山市議との NPO・ボランティアの円卓会議」をわかやま NPO センターと和歌山市 NPO・ボランティア推進協議会で構成される実行委員会の主催で開催。2 月議会の開会直前となり、市議の参加が当初予定より少なくなったという反省事項はありますが、「地域の居場所」づくりについて活発な議論がなされました。



内閣府が主導する「孤独・孤立対策」事業の一環として全国各地で開催されている「つながりサポーター養成講座」を和歌山に誘致し、1 月に講座を開催。約 40 名の参加がありました（写真）。当日の資料を用いてわかやま NPO センターとして講座等の取り組みを行うことを認められていることから、今後の「孤独・孤立」に関する問題への認知度向上等への活用を検討しています。

2023 年度に開催した、岸本周平知事と NPO 関係者の対談の場「わかやま NPO フォーラム 2024」の続編の開催を検討しましたが都合がつかず、2024 年度は開催を見送って日程・テーマを再調整することとした矢先の 2025 年 4 月、知事が急逝されたことからいったん開催は白紙となっています。

★NPO 等との連携

県内のみなさんからのご寄附により県内の NPO・ボランティア活動を資金面で支援する「わかやま SDGs パートナシップ基金」事業では前述のとおり県内 13 団体に助成を実施。様々な形態の「こども食堂」「地域の居場所」が採択されており、団体の活動を知る場としても大きな成果があったと思われます。

和歌山県社会福祉協議会内に常設の「災害ボランティアセンター」に関連して、同センターが実施した災害ボラセン設置訓練に参加。また、2024 年度後半には、「防災庁」設置の動きのほか、能登半島地震等の教訓から「災害ボランティア中間支援組織」の設置・運営支援などの議論が急速に進んでいます。和歌山県庁の担当である県民生活課などとも断続的に協議をおこなっています。

日本 NPO センターと損保ジャパンが共同事務局を担当している「SAVEJAPAN プロジェクト」の 2023-24 シーズンの採択を得て 2024 年度初頭から様々なプログラムを実施したほか、2024 年 10 月からの 2024-25 シーズンにおいても引き続き採択され、いずれも「紀美野町自然環境ネットワーク」等との連携で同町「中田の棚田」での生き物さがしのプログラムを実施、多くの参加をいただきました（写真）。



日本 NPO センターなどが全国の NPO 支援機関有志による「NPO・市民活動支援共有ミーティング（通

称：わくわく会議）」にも引き続き呼びかけ人として参画。NPO 支援機関同士の交流・学びの場の運営にも関与しました。

全国で NPO 法人の実務支援にあたる中間支援組織有志で構成する「全国 NPO 事務支援カンファレンス」の代表世話役として、NPO 法人の運営実務セミナーなどの運営にも引き続き関わり、そこから派生し、設立された「NPO で働く人の会」では、NPO で働く人の環境整備に向けた検討にも携わっています。

若年層の公益活動への参画促進を目的に、NPO クリーン＆コネクト和歌山と連携し、高校生のアントレプレナーシップ教育について考える講座を開催し、多くのご参加をいただきました。花王ハートポケット倶楽部助成事業を契機に、高校生を中心としたボランティア団体などとの連携も深めることができ、公益活動のすそ野の拡大に寄与することができたと考えています。

4) 情報発信力の強化

わかやま NPO センターのウェブサイトでは県内 NPO・ボランティア団体データベース、イベント情報、助成金情報のデータベースが稼働しており、日常的な更新をおこなっています。

また、わかやま新報隔週金曜連載 NPO 紙面「わかつく」、Facebook ページ等多彩な手段で地域の NPO・ボランティア活動や、今後の地域づくりにつながりそうな様々な情報などを紹介しています。「わかつく」掲載の情報は学習会や大学の講義などの場で活用いただいていることを確認しています。今後もこのような機会の創出を図ることで、自分たちの街の現状と今後を知るきっかけづくりにつながることを期待されます。

5) 組織運営

寄附金税制が受けられる認定 NPO 法人として毎事業年度、3,000 円以上のご寄附¹を 100 名以上から頂き続けることが求められていますが、2024 年

度は 2 年ぶりに 100 組を超えるご協力をいただきました。みなさま、ありがとうございます。

組織運営に際しては、毎月 2 回程度、正副理事長によるミーティングをおこない、業務の進捗状況の確認等を実施しているほか、2 か月に 1 回理事会を開催し、必要な事項の議決、協議などを行っています。加えて毎月 2 回、全スタッフが集まるミーティングを実施し、その時々の方々の事業の進捗状況をシェアしたほか、適宜、スタッフが分担しながら外部の学習会等に参加しました。

さらに、和歌山県との間で締結している「人権尊重のまちづくり協定」に基づき、人権研修の実施、人権に関するトピックスを職員内で共有するなどの取り組みを継続しました。

【ご参考】

※ わかやま NPO センターが連携している県内の NPO 支援機関

- 和歌山市地域フロンティアセンター
- 和歌山市 NPO・ボランティア推進協議会
- 橋本市市民活動サポートセンター
- 田辺市市民活動センター
- 新宮市ボランティア・市民活動センター

※ わかやま NPO センターが参加している主な県外の NPO 支援ネットワーク

- 日本 NPO センター CEO 会議
- NPO・市民活動支援共有ミーティング（通称「わくわく会議」）
- 近畿労働金庫 NPO パートナースhip制度・近畿圏 NPO 支援センター連絡会議
- 関西 NPO 支援センターネットワーク
- 全国 NPO 事務支援カンファレンス
- NPO で働く人の会（NPO 等の職員の互助的活動をおこなう団体）
- NPO 法人会計基準協議会
- フィランソロピー・CSR リンクアップフォーラム（在阪企業・NPO 等のネットワーク）

¹ わかやま NPO センターの場合は、寄附金に加え、正会員会費 2 口目以降と賛助会員会費 3 口以上を入金いただいた方も寄附金税制対象となる入金として取り扱いができます

活動のあしあと

わかやま NPO センターの役職員が関係・参加した主なイベント・取り組みを掲載しています。

4月

- ・ 11日 わくわく会議
- ・ 25日 理事会

5月

- ・ 23日 田辺市補助金審査会
- ・ 24日 橋本市交付金審査会
- ・ 25日 わかやま NPO センター総会

6月

- ・ 2日 SAVEJAPAN プロジェクト
- ・ 5日 SAVEJAPAN プロジェクト中間報告会
- ・ 6日 近畿労働金庫 笑顔プラス寄附金贈呈式
- ・ 7日 和歌山市協働推進協議会
- ・ 11日 橋本市いきいきリーダー養成カレッジ講師／フィランソロピー・リンクアップフォーラム
- ・ 20日 和歌山信愛大学ゲスト講義
- ・ 24日 近畿ろうきん NPO パートナーシップ制度・キャリアデザイン講座（第1回・九度山町）
- ・ 25日 理事会
- ・ 26日 NPO 事務支援カンファレンス総会

7月

- ・ 1日など 岩出市公民館講座（計5回）
- ・ 11日 近畿ろうきん NPO パートナーシップ制度・キャリアデザイン講座（第2回・九度山町）
- ・ 21日 SAVEJAPAN プロジェクト
- ・ 24日 NPO のための防災講座
- ・ 26日 和歌山市職員研修

8月

- ・ 1日 橋本市地域運営組織懇話会
- ・ 4日 SAVEJAPAN プロジェクト フォーラム
- ・ 5日 和歌山市 NPO・ボランティア推進協議会
- ・ 7日 和歌山市協働推進協議会
- ・ 18日 SAVEJAPAN プロジェクト
- ・ 27日 理事会

9月

- ・ 6日 橋本市交付金審査会
- ・ 14日 高野口地区タウンミーティング
- ・ 21日 隅田地区タウンミーティング

10月

- ・ 3日 わくわく会議・上芳養地区ワークショップ
- ・ 7日 和歌山市 NPO・ボランティア推進協議会
- ・ 8日 和歌山市協働推進協議会
- ・ 17日 田辺市補助金審査

- ・ 22日 理事会

- ・ 30日 橋本市地域運営組織懇話会

11月

- ・ 9日 高校生のためのアントレプレナー講座
- ・ 12日・25日 近畿ろうきん NPO パートナーシップ制度・キャリアデザイン講座（有田川町）
- ・ 14日 和歌山市職員研修
- ・ 23日 労働者福祉まつり
- ・ 24日 和歌山市 NPO・ボランティアフェスタ
- ・ 30日 近畿ろうきん 笑顔プラス防災講座
- ・

12月

- ・ 2日 和歌山市 NPO・ボランティア推進協議会
- ・ 6日 近畿ろうきん NPO パートナーシップ制度会議
- ・ 8日 おもしろ環境まつり
- ・ 10日 和歌山市協働推進協議会
- ・ 11日 田辺市上芳養ワークショップ
- ・ 14日 サボセン NPO 交流会・起業家トーク
- ・ 15日 SAVEJAPAN プロジェクト
- ・ 17日 花王ハートポケット倶楽部第1次審査会

1月

- ・ 18日 SAVEJAPAN プロジェクト
- ・ 24日 田辺市上芳養ワークショップ
- ・ 26日 サボセン 寿司文化継承を考える学習会
- ・ 31日 つながりサポーター養成講座

2月

- ・ 1日 高野口地区ワークショップ
- ・ 4日・5日 こども食堂開設応援講座
- ・ 7日・9日 NPO 事務局セミナー全国開催
- ・ 15日 和歌山市議と NPO・ボランティア円卓会議
- ・ 16日 しんぐう元気フェスタ
- ・ 17日 橋本市交付金事業報告会
- ・ 19日 田辺市職員研修
- ・ 21日 和歌山市協働推進協議会
- ・ 22日 隅田地区ワークショップ
- ・ 25日 理事会

3月

- ・ 2日 市民活動フォーラム田辺学習会
- ・ 14日 県内中間支援機関交流会
- ・ 15日 ろうきんシンポジウム（京都）
- ・ 29日 SAVEJAPAN プロジェクト